

コンセプト

- 国土交通省が募集するバリアフリー・ナビプロジェクト「10年後の歩行って？」に応募
- 京都や金沢をモデルとした土地の確立
 - └─→ 行政の改革が必要になる
- 「人口密度の高い地域×歩行」のビジネスモデルの確立
 - └─→ 高齢者が多く、人口密度の高い地域が増える
 - 人×車の関係は過疎化地域のみには見られない現象
 - 人×人の増加
- 車いすや杖、洋服や靴などにナビゲーションシステムを導入
 - └─→ スマートフォンの代用として、歩行の補助的作用の効果を期待

10年後の歩行はどうなっているのか

現在

歩くことを補助するシステムや機械による移動手段が増えている
(動く歩道や交通機関の発達)

10年後

AIや5Gの発展(AIや5Gを搭載した機械やシステム増える)

⇒現在よりもシステムや機械に依存する可能性

歩行時間は減少する

歩行時間減少の改善

- ・歩行を促すために特化する
- ・足の不自由な人を援助できる



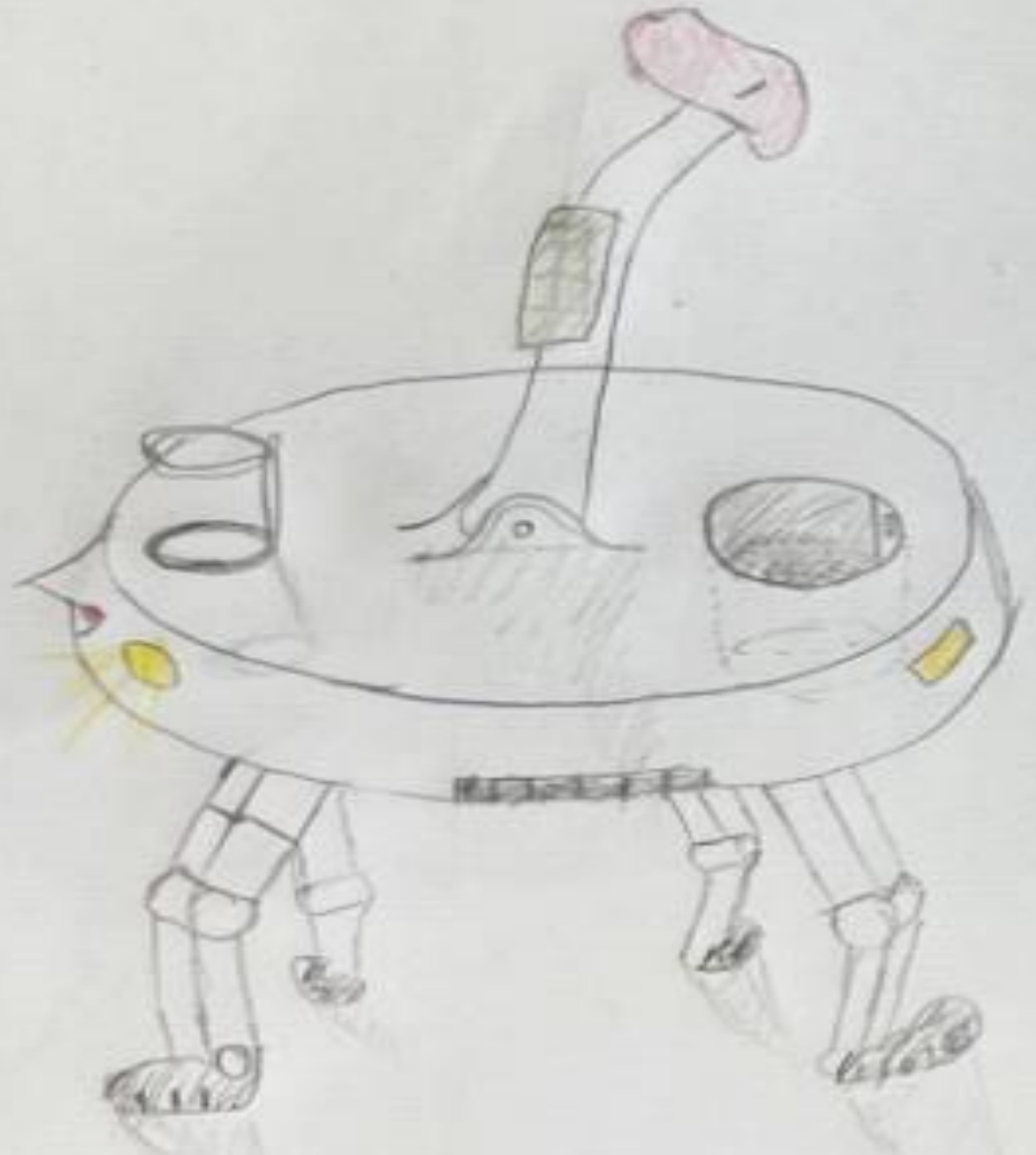
誰もが歩行を
楽しめる
ロボットを考案

プロジェクト案

名称

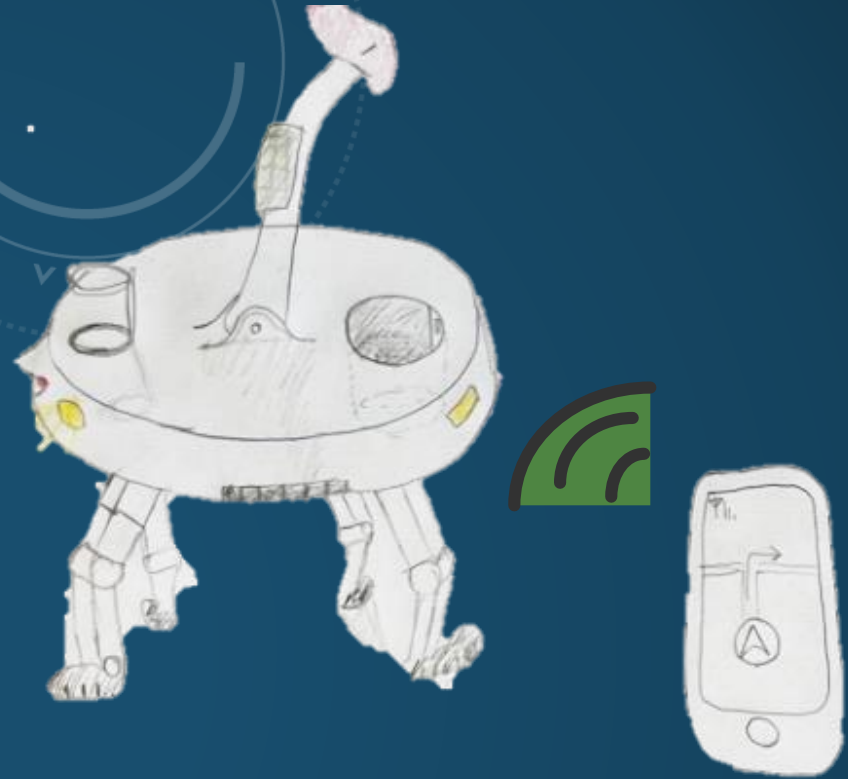
Alpics

-アルピクス-



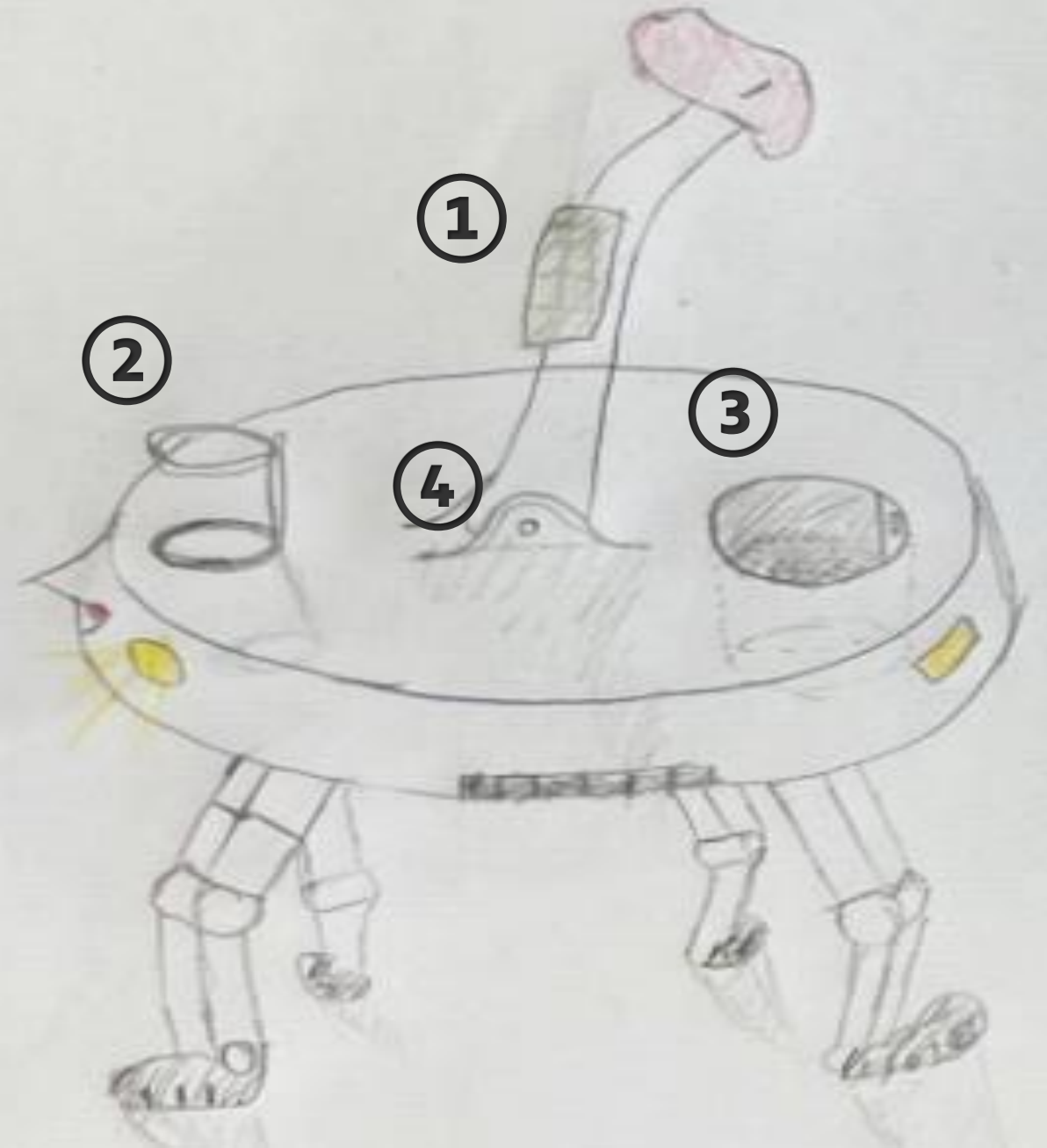
プロジェクト案特徴①

- ・ 四つ足
→安定した状態を維持することができる
- ・ 杖の部分を外し、道端で座ることが可能
→太もものセンサーと連動しているため、座りながら動くことは起こらない
- ・ 脚は30cm
→階段などの上り下りがしやすくなる
- ・ 追尾機能が付いている。
- ・ スマホとの連動
→道案内ができるようにする
- ・ 冷却ファンを付ける
→熱を逃がし、オーバーヒートを避ける



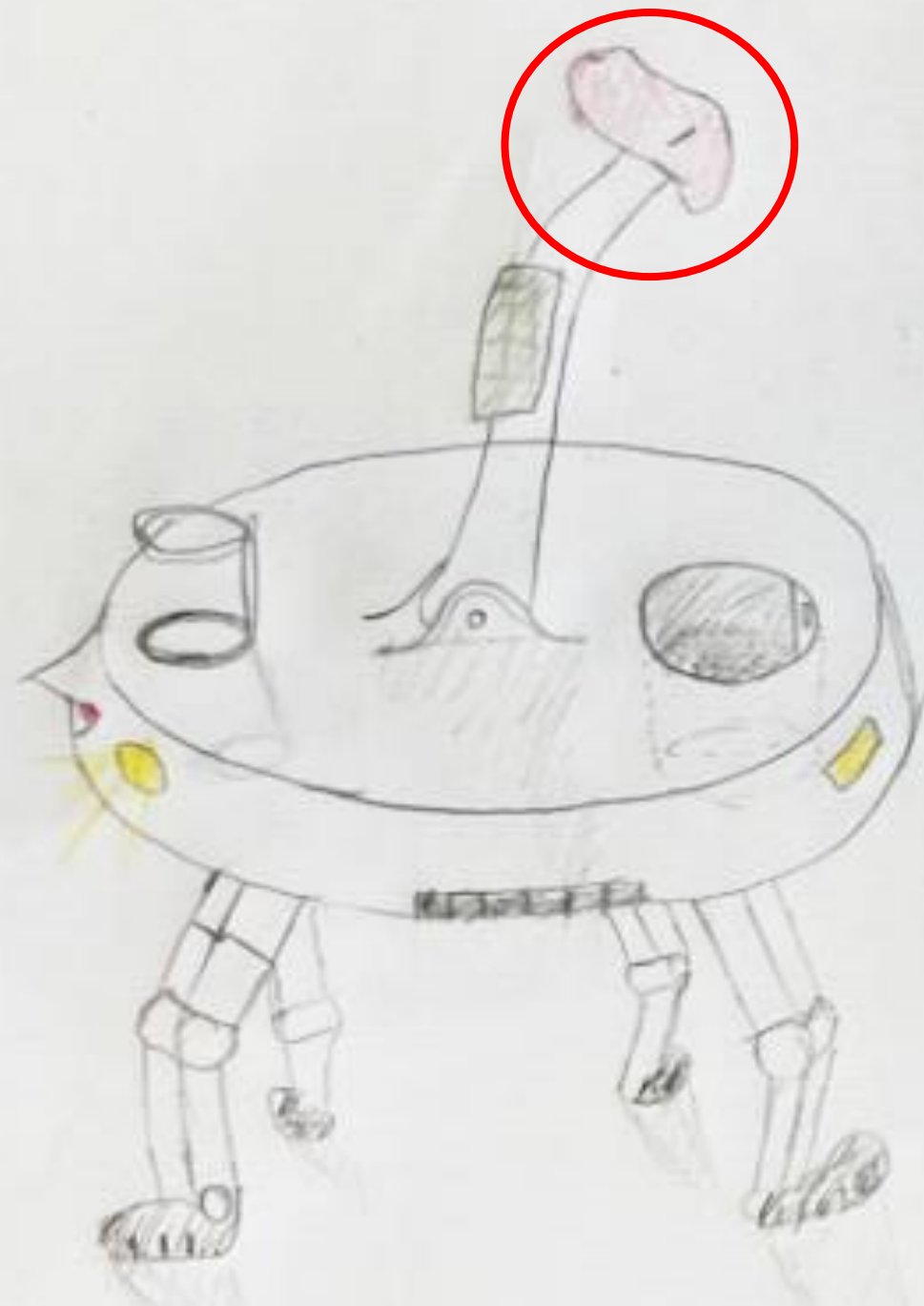
プロジェクト案特徴②

- ①ミニソーラーパネルが杖に付いている
→活動時間を増やす
- ②ペットボトルホルダーが付いている
→押し込むことで収納することも可能
- ③ミニゴミ箱が付いている
→スライド式で閉めることも可能
- ④杖には角度調整と高さ調整を装備
→角度調整は階段を上るときなど
→高さ調整は、身長調整など



プロジェクト案 心理的要素(持ち手)

- ・杖の持ち手の部分はT字
→握りこむと手にベルトが装着
- ・少し手を離すとベルト解除
→手にかかる負荷を減少
- ・握る部位にはコットンのような肌さわり
→握りたくなるようにする



プロジェクト案 心理的要素(色)

- ・持ち手の部位を赤色、黄色
→注意喚起やぶつかるのを防ぐ

- ・全体的のベース色は白色
→デザインは買った人が自由にアレンジ



自分の所有物というイメージを持たせる



プロジェクト案 心理的要素(愛着)

センサーとライトを(◎ (O) ◎)

→顔を作ることによって愛嬌UP!

